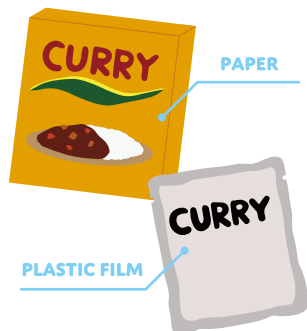
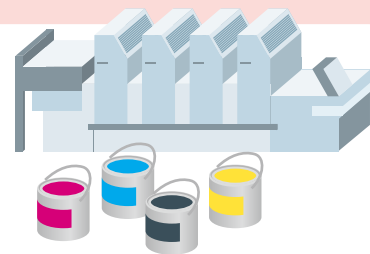


軟包装資材の「グラビア印刷」と 紙パッケージの「オフセット印刷」



商品の包装資材は、中身や役割に応じて様々な材質が使われますが、材質によって、印刷機や印刷方法が異なります。

例えば、レトルトカレーのように、中に入っているパウチがフィルム・外装が紙の箱といった商品の場合、パウチは軟包装資材に最適な「グラビア印刷」で。紙パッケージは「オフセット印刷」で印刷されます。

それぞれの特徴や印刷工程を比較してみましょう。

	紙に印刷するなら「 オフセット印刷 」	フィルムへの「 グラビア印刷 」印刷は
	紙パッケージは、塗り足しを設けたり、箱の形に応じて折位置や断裁ズレを考慮してデータを作る必要があります。 	透明なフィルムに印刷する場合など視認性・可読性を考慮し、下地に白色を印刷します。 
印刷工程	製版 ↓ 印刷 ↓ 表面処理 ニス加工やフィルムを貼るなど、摩擦や水に対する強度を高めるための加工 ↓ 打ち抜き加工 (トムソン加工) 展開図の形に合わせて、型抜きをする ↓ 貼り ↓ 製函 糊付けやステープル打ち、テープ貼りなどして箱状に成形する	製版 ↓ 印刷 ↓ ラミネート ↓ スリット 必要なサイズにカットし、ロール状に巻いていく ↓ 製袋※ 袋状に加工する ※スリットしたフィルムの状態で商品の充填をしながら封入していくタイプの包装機を使う場合はスリット加工までの工程になります
メリット	● 色の再現度が高く、色味を忠実に再現できる。 ● 細かい文字や線をはっきりと印刷できる。 ● 印刷がしやすいため、箱の形やデザインに自由度がある。	● 色の濃淡を表現するのに優れている。 ● 高速で印刷できるため大量印刷に最適。 ● 紙パッケージに比べ低コスト。
デメリット	● 大ロットやリピート印刷の場合、グラビア印刷に比べコストが高くなる。 ● 印刷後インクを乾燥させる必要があり、時間がかかる。	● 極端な小ロットや試作には不向き。 ● デザインの線が細いとかすれる。 ● 色を多く使う場合は色ズレが発生するので注意が必要。